



# ポスターセッション

第14回子ども学会議では、71件のポスターが発表された。内訳は一般募集のポスターが64件、日本子ども学会研究開発委員会推薦ポスターが7件である。発表はポスターセッションの時間を2つに分け、それぞれ45分ずつ発表することとし、発表者も他者のポスターを見にいけるよう工夫した。また、今回は高校生によるポスター展示も行った。

その結果、理事33名による投票により、最優秀賞1名、優秀賞4名が選ばれ、大会1日目の夕刻から行われたイブニング・セッションで表彰された。

## 【最優秀発表賞】

**仁木和久**：「人間固有の能動的・主体的学び」を支える脳構造 & 機能とその生涯にわたる発達

## 【優秀発表賞】

**江川翔一**：近親性向上のための瞳孔反応を用いた遊びロボットシステムの開発

**高岡純子**：子育て期の親の生活満足度に関する日独比較調査(2) - 親の教育価値観・親役割観との関連 -

**戸次佳子**：子どもの協調運動の発達と行動特性およびQOLとの関連 - 保護者を対象とした質問紙調査 -

**酒井 厚**：子ども期の社会性発達の発達に関する縦断研究プロジェクト(16) - 幼児期の身体運動と認知・言語能力評価との関連性 -

## 【特別理事長賞】 兵庫県立上郡高等学校普通科3年 健康科学類型教育分野

**山田裕介、深澤友雅、中山謙太郎、小南柊人** (担当教員) **中瀧健一、松崎和則**

：兵庫県立上郡高等学校『社会人基礎力育成プログラムⅠ・Ⅱ・Ⅲ』の取り組み

## 第14回子ども学会議 ポスターセッション最優秀発表賞 演題 「人間固有の能動的・主体的学び」を支える 脳構造&機能とその生涯にわたる発達

**仁木和久** (お茶の水女子大学 人間発達教育科学研究所、産業技術総合研究所 人間情報研究部門)

**緩利 誠** (昭和女子大学)

**内海緒香** (お茶の水女子大学 人間発達教育科学研究所)

**柿原洋一** (お茶の水女子大学 人間発達教育科学研究所)

**岩野孝之** (昭和女子大学)

人間固有の主体的・能動的学びを育み、生涯にわたるアクティブラーナー・問題解決者を育てるためには、「人間の学び」を支える脳の構造と機能の正しい理解が不可欠である。本論では、そのような学びを支える脳機能・構造自体の発達&変化の様相を示し、脳発達段階に応じた適切なアクティブラーニング教育が必要・不可欠であることを論じる。

\*脳構造の生涯にわたる発達・変化がある。この長期的ダイナミクスは、乳児期、幼児期、子ども期、少年期、青年期、成人期、老年期にわたる一貫した脳構造の変化を伴う。

\*脳機能の発達・変化は、(マクロ的に)脳構造の発達・変化と軌道を共にするが、一方、(ミクロ的に)短期的により微細に機能的変化をする。生活環境や学習&教育の影響は、脳の可塑性&学習特性を反映した微細的機能変化として蓄積される。

\*脳の深層学習(ディープラーニング)機能は、(生活環境での)膨大な外界(・体性)情報を圧縮&カテゴリ構造化し、体性感覚マップや視覚物体認識カテゴリ、言語意味マップなどを(教育を必要とせず)形成する。その内化した外界情報を「意図・目的」を持って操る脳構造部位(デフォルトネット、前頭葉-頭頂葉)が「人間固有の主体的・能動的な学び」の主役である。

主体性や能動性の起源や核となる脳機能を指摘できるが、「学びの行為(意図をもった行動)」を身につけさせるためには、長期的・継続的で適切な教育指導が不可欠になる。脳の発達をみると、学びの危機の時期が存在し、教育の中での適切な対応も求められる。そのような脳科学的エビデンスも示す。

演題番号	筆頭発表者	タイトル
1	福山 英明	運動の拙劣さや苦手を有する子どもに対する総合型地域スポーツクラブでの取り組み
2	山田 一典	幼児のアキレス腱は発育の影響を受けないのか?
3	鹿島 孝代	園生活を通して楽しく体を動かす保育実践
4	小倉 晃布	体育授業における学習場面の構成を促す手作り教具の提案
5	石沢 順子	運動・スポーツ系の習いごとと幼児の日常身体活動量の関係
6	浅野 幹也	ボールの大きさと重さが幼児の投能力に及ぼす影響に関する一考察
7	山田 悟史	スポーツ保育に基づく運動遊び (TIP 遊び) が幼児の活動量と足指筋力に与える影響
8	Devena Haggis	The Role of Sport Events in Promoting Olympic and Paralympic Values in Children
9	岡崎 祐美	ダンス活動による小学生の社会的スキルの変化—小学校での活動実施を目指して—
10	長谷川 晃一	鉄棒運動における「前方支持回転」の指導方法に関する研究
11	花岡 清美	4ヶ月乳幼児健診における音楽活動適用の発達評価の効率性と保護者支援向上の可能性
12	深町 澄子	インドムンバイ市における発達障害児への支援の実態
13	内藤 千尋	発達上の課題・困難を有する非行少年の発達支援の課題—少年院在院者への面接法調査から—
14	柴田 真緒	発達障害者の有する睡眠困難の実態と支援のあり方—発達障害当事者調査を通して—
15	田部 絢子	発達障害児の食の困難の実態と支援ニーズに関する研究—発達障害本人・保護者調査から—
16	池田 敦子	子どもの「育ちと発達の貧困」と特別支援教育—知的障害特別支援学校高等部における実態と支援—
17	石川 翔吾	マルチモーダルケア技法による自閉症児への介入効果検証に向けた基礎的検討
18	小椋 たみ子	子どもの言語環境と言語発達・精神発達
☆ 19	仁木 和久	「人間固有の能動的・主体的学び」を支える脳構造&機能とその生涯にわたる発達
20	黒澤 寿美	問題解決時における逆向きの思考の役割
21	西尾 新	就学前の子どもの通信教育教材利用実態と保護者が子育てで重視する事柄との関連
22	伊原 小百合	幼児期の自由遊びにおける楽器とのかかわり—探索的な行為に着目して—
23	竹安 知枝	幼少期の遊びがその後の人格形成に与える影響
24	瀬尾 知子	幼児期におけるテクスチャー嗜好と選好理由の検討
25	田中 佑佳子	子どもの育ち ~食育活動を通して~
26	オレクサ・ロバート	アンソニー EFL 幼稚園でストーリーテリングの課題における感情やユーモアの使われ方
27	内海 緒香	乳幼児期のエフォートフル・コントロールに関する考察: 保育実践への発展
28	朝倉 民枝	デジタルメディアを「創る」の支援に「おはなしのもり 絵本づくり」活動報告
29	岡保 由美子	子どもの描画の分析による気持ちの理解
30	檜壽 日佳	体を動かして遊ぶことを楽しむ幼児を目指して—小規模幼稚園における実践事例—
31	服部 弘	ラーニング 3.0 の世界へ—幼稚園・保育園での ICT 活用教育保育の効用と今後の課題—
32	勝田 麻津子	気になる子どもを育む保育者の専門性—幼稚園での特別支援アドバイザー実践から—
33	あづみ園	年長児への就学前の学習の取り組み
34	藪田 弘美	自然体験活動を通して育まれる幼児期の非認知的能力
35	藪田 弘美	世代間交流を通じた地域の教育力の継続方法
36	寺田 和永	地域子育て支援拠点施設の利用評価—利用満足度の規定要因が総合評価に及ぼす影響—
37	佐藤 朝美	学びのポートフォリオ共有による園と保護者の連携: 幼稚園教諭インタビューによる検討
38	森谷 路子	保育園と地域の連携で行う運動遊びが家庭と幼児に与える影響—保護者アンケートより—
39	小島 理永	総合大学の学内資源を活用した子育て支援—ダイバーシティ実現にむけて—
40	南川 華奈	不登校児童・生徒を対象とした「親子宿泊体験教室」の効果
41	吉澤 英里	高校生の評価への恐れと自己志向的完全主義が社交不安に与える影響
42	倉島 和久	不登校生徒児童に配慮した SNS 利用の情報リテラシー・情報モラル教育の提案
43	小崎 恭弘	父親の主体的な仲間活動のあり方に関する研究—パパサークル全国調査からの考察—
44	所 真里子	国際的な子どもの安全規格 ISO ガイド 50 を活用した事故予防: 保護者への実践活動報告

演題番号	筆頭発表者	タイトル
45	三島 悠希	図書館へのイメージと子どもの頃の図書館での体験との関係
★ 46	江川 翔一	親近性向上のための瞳孔反応を用いた遊びロボットシステムの開発
47	石川 衣紀	北欧における子ども中心の社会的養護システムの実態—スウェーデンとアイスランドの「子ども養護センター Barnahus」調査から—
48	菅原 ますみ	子育て期の親の生活満足度に関する日独比較調査（1）—職場および家庭でのストレス・心身の健康度との関連—
★ 49	高岡 純子	子育て期の親の生活満足度に関する日独比較調査（2）—親の教育価値観・親役割観との関連—
50	能田 昂	1891（明治24）年の濃尾震災下における石井十次と岡山孤児院の児童救済活動
51	白木 裕子	子どもの病気の際に保護者が行う子どもへの受診時の説明
52	田 暁潔	日常労働と遊びから見る子どもの身体発達と社会化：ケニア・マサイの事例から
53	田中 卓也	『少女ブック』における女性読者のライフスタイルに関する一考察
54	土井 康義	子どもの心身を育む都市部における水辺環境に関する研究
55	古田 康生	シニアカレッジ参加者の幼少期における遊び経験の実態—高齢者と大学生の幼少期における運動遊び実施の比較検討—
56	榊原 洋一	子どものQOLと自尊感情を規定する要因の検討
57	山本 桃子	トランスバーサル・コンピテンス 経験からことばへフィンランド カリキュラム改訂より
★ 58	戸次 佳子	子どもの協調運動の発達と行動特性およびQOLとの関連—保護者を対象とした質問紙調査—
59	戸次 佳子	保育士養成学科における地域子育て支援イベント「けいたんキッズスクエア」の取り組み
60	木村 美知代	保育者の専門性を高める養成校と保育現場との協働
61	漁田 俊子	保育士の資質向上と研修：保育者は日頃どのようなことを勉強不足と感じているか
62	室井 真紀子	指導案作成時の学生の課題意識～指導案作成のよりよい指導に向けて～
63	川瀬 雅	参与観察から明らかになる表現教育—公立幼稚園と私立幼稚園の比較から—
64	大山 宮和瑚	弾き歌いによる保育の影響と効果の一考察—主要三和音のピアノ伴奏と模擬保育の試み—
推薦1	梅崎 高行	子どもの心理社会的な発達と身体活動（1）：サッカーへの取組に関わる気質と家族要因
推薦2	大平 誠也	運動遊びの模擬保育演習における困難性と学びの実際
推薦3	櫻庭 陽子	脳性まひチンパンジー女兒の姿勢と行動—麻痺側後肢の動きに着目して
★ 推薦4	酒井 厚	子ども期の社会性の発達に関する縦断研究プロジェクト（16）：幼児期の身体運動と認知・言語能力評価との関連
推薦5	佐々木 玲子	幼児の自由遊び中にみられる動きの多様性とその個人差
推薦6	眞榮城 和美	子どもの運動能力評価の発達と機能に関する検討—児童期から青年期前期における双生児を対象とした縦断的検討—
推薦7	三瀬 貴生	競泳における小学生と中学生の性別ごとの身体的特徴

☆マークは最優秀発表賞 ★マークは優秀発表賞